

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年 月 日記入

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	31420
政策名(章)	第1章 立地特性を生かした産業の振興をめざします	評価担当部	経済部
基本施策名(節名)	第4節 商業・サービス業の振興	評価担当課	商業サービス業課
施策名	にぎわいのある商店街づくりの支援	課長名	加藤 一嘉

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

<p>個性的で魅力的な商店街の形成をめざし、商店街運営・事業活動の充実を促進するなど、にぎわいのある商店街づくりを支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 商店街フォーラムの開催による商店街リーダーの養成など、商店街団体の組織強化や運営を支援する。 イベント事業や情報発信事業など、商店街が自主的・個人的に取り組む「商店街ステップアップ事業」の支援 空き店舗を有効に活用し、商店街の活性化を図るため、商店街が実施する「空き店舗活用事業」の支援 商店街の活性化を推進するためのアドバイザーの派遣
--

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		45,938	長引く景気低迷や大規模小売店舗の進出などにより商店街を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあることから、商店会の体力が落ち、自主的に行うソフト事業について削減方向にある商店会が多いため。
人件費		6,762	
市民一人あたりの事業費	121	79	
合計	74,229	52,700	

*人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

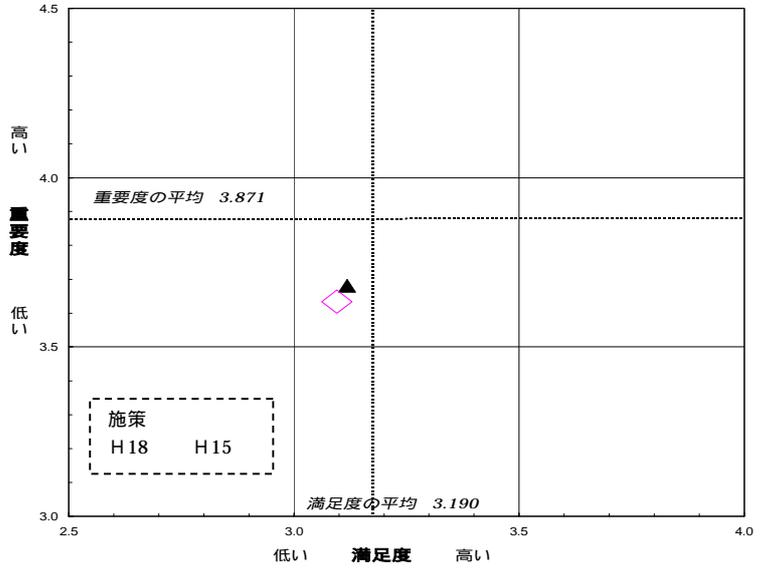
3 成果・活動指標

指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1 空き店舗率	市内商店街の中の空き店舗数/商店街店舗数(商店会会員数) × 100 H16市内商店街の中の空き店舗数:126/H16商店街店舗数(商店会会員数):2,464 × 100	5.1%	H16
指標2 空き店舗活用事業の支援状況	空き店舗活用取り組み店舗累計数/市内商店街の中の空き店舗数 H16空き店舗活用取り組み店舗累計:12店舗/H16市内商店街の中の空き店舗数:126店舗	9.5%	H16
指標3 イベント事業実施割合	イベント事業数/市内商店会数 H16イベント事業数:46事業/H16市内商店会数:67団体	68.7%	H16
指標4 「にぎわい効果があった」と回答した事業率	大変賑わいがあったと商店街から報告のあったイベント事業数/商店街から報告のあったイベント事業数 × 100 H16大変賑わいがあったと商店街から報告のあったイベント事業数:23/商店街から報告のあったイベント事業数:41 × 100	56.1%	H16
指標5			

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1 達成率	5.0% / 5.0%	19	4.8%	21	4.6%	H16基準値に対する10%削減を最終年度目標値に掲げ、段階的に設定したもの
指標2 達成率	11.60 / 10	19	15.80%	21	20.00%	最終年度において、市内の空き店舗数を20%削減していく
指標3 達成率	70.96 / 70.15	19	75.5%	21	80.0%	最終年度において、市内商店会のうち60%の商店会がイベント事業に取組むと捉えた場合のイベント実施割合
指標4 達成率	58.1% / 55.9%	19	62.1%	21	66.1%	最終年度において、10%増加を目標に掲げ、段階的に設定したもの
指標5 達成率	#DIV/0! / %	19		21		

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.095で51施策の中で38番目。
 重要度は3.634で37番目である。
 改善要望度は - 0.0997で28番目である。
 年齢別にみると、満足度は70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 重要度は50歳代以上で高くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度は施策の順位が下がっており、重要度は大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、20歳代で前回調査より大幅に上がり、70歳以上で大幅に下がっている。
 重要度の順位では、40歳代で上がり、60歳代、70歳以上で下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 (2) 1	商店街の活性化を推進するためには、商店街が自ら取り組むソフト事業に対する支援(イベント事業、情報発信事業、空き店舗活用事業などの活性化事業支援)は効果が高いものとする。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4 (2) 1	活動主体となる商店会の創意と熱意ある取組みに対して、側面的な支援を行っているが、補助金交付対象事業の効果・検証体制が整っていないことから、十分な効果が上がっていない状況である。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 2 (1)	70歳代の満足度が下がったことから、高齢者を対象とした商業振興を充実する必要がある。今後、商店街のにぎわい創出の観点から、地域住民と連携した事業を実施する上では、高齢者を対象とした事業展開を促進するための支援を図っていきたい。	
合計		5	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	商店街のにぎわい創出のためには、半数以上の商店会が利用している商店街活性化支援事業は重要な事業と考えており、補助金交付実績報告からも、商店会からはPR効果やにぎわい創出効果及び販売促進に繋がると回答している商店会が多い中、効果を測定する数値的指標の導入など、適正な検証体制を含めた見直しが必要である。
解決策	商店街だけでなく地域住民と一体となった活性化事業の展開が重要と考えられる。また、事業実施にあたっては、商店会自らが目標設定を行い、事業実施後において達成度を報告することで目標達成度を認識させるなど、意識改革を図りながら事業効果を検証していくこととする。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

設定された指標の目標値の水準が甘く、高評価となっている。商店街の来訪者や売上など、より分かり易い指標の設定を検討する必要がある。 今後は、補助金投入の効果等、事業の有効性を把握した中で、効率性にも配慮しつつ事業の見直しを行うべきである。	2次評価 B
---	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

にぎわいのある商店街づくりの支援

コード 31420

構成事務事業一覧

構成事務事業	事務事業 担当課	H15施策 の 優先順位	H15人員 (人)	H14決算額 (千円)	H18施策 の 優先順位	H17人員 (人)	H17人件費 (千円)	H17事業費決 算額(千円)	H17決算額 (千円)
商業実態調査事業	商業サービス業課	3	0.05	6,775	5	0.05	403	3,623	4,026
商店街近代化事業補助金	商業サービス業課	2	0.30	36,200	2	0.30	2,415	25,824	28,239
商業団体育成費	商業サービス業課	4	0.10	3,607	3	0.04	322	1,066	1,388
商店街振興支援事業 商店街活性化事業補助金	商業サービス業課	1	0.25	27,647	1	0.40	3,220	14,405	17,625
アドバイザー派遣事業	商業サービス業課				4	0.05	403	1,020	1,423
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
	計		0.70	74,229		0.84	6,762	45,938	52,700
	合計		0.70	74,229		0.84	6,762	45,938	52,700

